

各 関 係 機 関 御 中

石川県農林総合研究センター所長
(公 印 省 略)

病虫害発生予察情報について

令和 7 年度病虫害発生予報第 5 号を下記のとおり送付します。

連絡先	石川県農林総合研究センター 中央普及支援センター 病虫害防除室 電 話 076-257-6972 (直通) F A X 076-257-9140 E-mail kisk0301@pref.ishikawa.lg.jp
-----	--

病虫害発生予報第 5 号 (予報期間：8月上旬～8月下旬)

予報内容

水 稲

紋枯病の発生は**多**と予想される。防除を実施していない場合は、発病を確認した場合、直ちに防除を実施する。

斑点米カメムシ類の発生は**多**と予想される。高温乾燥時には水田への侵入が促進されるので、防除を徹底し、斑点米の発生防止に努める。【病虫害発生予察注意報第 3 号（令和 7 年 7 月 3 1 日付）参照】

大 豆

ハダニ類の発生は**多**と予想される。抵抗性の獲得を防止するため、同一系統の薬剤は連用しない。

カメムシ類の発生は**やや多**と予想される。幼莢期から子実肥大期に必ず防除を実施する。

アブラムシ類の発生は**やや多**と予想される。抵抗性の獲得を防止するため、同一系統の薬剤は連用しない。

果 樹

ハダニ類の発生は**多**と予想される。抵抗性の獲得を防止するため、同一系統の薬剤は連用しない。発生源となる下草を刈り取った後、防除する。

ナシ黒星病の発生は**やや多**と予想される。降雨前後の防除を徹底する。

カキ炭疽病の発生は**やや多**と予想される。降雨前後の防除を徹底する。

カメムシ類の発生は**やや多**と予想される。山林に近い園では特に被害が多くなる傾向があるので、園内の侵入に十分注意する。

野菜・花き

軟腐病の発生は**やや多**と予想される。作業中は作物を傷つけないよう注意するとともに、害虫防除を徹底する。またネギ類は高温時の作業を避け、灌水をしないこと。

ネギ黒斑病の発生は**やや多**と予想される。降雨前後の防除を徹底する。

アザミウマ類の発生は**多**と予想される。抵抗性の獲得を防止するため、同一系統の薬剤は連用しない。

オオタバコガの発生は**多**と予想される。若齢期の幼虫の防除を徹底する。

ハダニ類の発生は**多**と予想される。抵抗性の獲得を防止するため、同一系統の薬剤は連用しない。

アブラムシ類の発生は**やや多**と予想される。抵抗性の獲得を防止するため、同一系統の薬剤は連用しない。

※ 農薬の使用に当たっては、最新の農薬使用基準を確認し、遵守する。

6～8月は農薬危害防止運動期間です。

—気 象 予 報—

1 か月予報 （令和7年7月24日付け 新潟地方気象台）

予報期間 7月26日～8月25日

[確率予報]

気 温	低い	10%	平年並	20%	高い	70%
降 水 量	少ない	40%	平年並	30%	多い	30%
日照時間	少ない	20%	平年並	40%	多い	40%

[概要]

- ・暖かい空気に覆われやすいため、向こう1か月の気温は高いでしょう。期間の前半は、気温がかなり高くなる見込みです。
- ・太平洋高気圧に覆われやすい時期があるため、向こう1か月の日照時間は平年並か多いでしょう。
- ・6月下旬から降水量が少なくなっています。期間のはじめにかけても太平洋高気圧に覆われて、降水量が少ない状態が続くでしょう。
- ・平年に比べ晴れの日が多いでしょう。
- ・7月26日（土）～8月1日（金）
太平洋高気圧に覆われやすいため、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。
- ・8月2日（土）～8月8日（金）
平年と同様に晴れの日が多いでしょう。
- ・8月9日（土）～8月22日（金）
平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

注 1) 発生量は平年比

注 2) (+) は病害虫の発生に好適な要因、(-) は不適要因、
(±) は好適・不適に関与しない要因を示す

1 水稻の病害虫

穂いもち

発生時期	8月以降
発生量	やや少
予報の根拠	(1) 葉いもちの現在の発生は少 (-) (2) 気温は高い (-) (3) 降水量はほぼ平年並 (±)
防除上の注意事項	(1) 出穂前後に降雨があると発生が拡大するので、この時期の防除は必ず実施する。

紋枯病

発生時期	連続発生
発生量	多
予報の根拠	(1) 現在の発生はやや多 (+) (2) 気温は高い (+) (3) 降水量はほぼ平年並 (±)
防除上の注意事項	(1) 防除を実施していないほ場では、発病を確認した場合、直ちに防除を実施する。

斑点米カメムシ類

発生時期	連続発生
発生量	多
予報の根拠	(1) 本田への侵入虫数は多 (+) (2) 気温は高い (+)
防除上の注意事項	(1) 出穂7～10日後と14～17日後の2回の防除を徹底する。 (2) 出穂後の草刈りは、本虫のほ場内への侵入を助長するので避ける。 【病害虫発生予察注意報第3号（令和7年7月31日付）参照】

セジロウンカ

発生時期	連続発生
発生量	並
予報の根拠	(1) 現在の発生はやや少 (-) (2) 気温は高い (+)
防除上の注意事項	(1) 今後の発生に留意する。

コブノメイガ

発生時期	連続発生
発生量	並
予報の根拠	(1) 現在の発生は少 (－) (2) 気温は高い (+)
防除上の注意事項	(1) 晩植や直播のほ場等では集中産卵による被害の発生が懸念される。 (2) ほ場巡回に努め、発生を認めたら直ちに防除を実施する。

ツマグロヨコバイ

発生時期	連続発生
発生量	並
予報の根拠	(1) 現在の発生は少 (－) (2) 気温は高い (+)
防除上の注意事項	(1) 今後の発生に留意する。

2 大豆の病害虫

紫斑病

発生時期	感染時期は幼莢期
発生量	やや少
予報の根拠	(1) 前年の発生はやや少 (－) (2) 降水量はほぼ平年並 (±)
防除上の注意事項	(1) 幼莢期から子実肥大期に必ず防除を実施する。

ハダニ類

発生時期	急増期は8月上旬以降
発生量	多
予報の根拠	(1) 現在の発生は並 (±) (2) 気温は高い (+) (3) 降水量はほぼ平年並 (±)
防除上の注意事項	(1) 抵抗性の獲得を防止するため、同一系統の薬剤は連用しない。

アブラムシ類

発生時期	連続発生
発生量	やや多
予報の根拠	(1) 現在の発生は並 (±) (2) 気温は高い (+)
防除上の注意事項	(1) 抵抗性の獲得を防止するため、同一系統の薬剤は連用しない。

カメムシ類

発生時期	連続発生
発生量	やや多
予報の根拠	(1) 現在の発生はやや多 (+) (2) 予察灯への誘殺数はやや少 (－) (3) 気温は高い (+)
防除上の注意事項	(1) 幼莢期から子実肥大期に必ず防除を実施する。

フタスジヒメハムシ

発生時期	発生盛期は8月下旬以降
発生量	並
予報の根拠	(1) 現在の発生は少 (－) (2) 気温は高い (＋)
防除上の注意事項	(1) 汚斑粒の発生要因となるため、子実肥大期の防除を徹底する。

3 果樹の病害虫

ナシ黒星病

発生時期	連続発生
発生量	やや多
予報の根拠	(1) 現在の発生はやや多 (＋) (2) 気温は高い (－) (3) 降水量はほぼ平年並 (±)
防除上の注意事項	(1) 降雨前後の防除を徹底する。

ナシ黒斑病

発生時期	連続発生
発生量	並
予報の根拠	(1) 現在の発生はやや少 (－) (2) 気温は高い (＋) (3) 降水量はほぼ平年並 (±)
防除上の注意事項	(1) 耐性菌の出現を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。

リンゴ斑点落葉病

発生時期	連続発生
発生量	やや少
予報の根拠	(1) 現在の発生は少 (－) (2) 降水量はほぼ平年並 (±)
防除上の注意事項	(1) 降雨前後の防除を徹底する。

カキ炭疽病

発生時期	連続発生
発生量	やや多
予報の根拠	(1) 現在の発生はやや多 (＋) (2) 気温は高い (－) (3) 降水量はほぼ平年並 (±)
防除上の注意事項	(1) 降雨前後の防除を徹底する。

果樹カメムシ類

発生時期	連続発生
発生量	やや多
予報の根拠	(1) チャバネアオカメムシの予察灯への誘殺数は並 (±) (2) 気温は高い (＋)
防除上の注意事項	(1) 山林に近い園では特に被害が多くなる傾向があるので、園内への侵入に十分注意する。

ハダニ類（なし、りんご）

発生時期	連続発生
発生量	多
予報の根拠	(1) 現在の発生は多（＋） (2) 気温は高い（＋） (3) 降水量はほぼ平年並（±）
防除上の注意事項	(1) 抵抗性の獲得を防止するため、同一系統の薬剤は連用しない。 (2) 発生源となる下草を刈り取った後、防除する。

4 野菜・花きの病害虫

疫病類

発生時期	連続発生
発生量	やや少
予報の根拠	(1) 現在の発生は少（－） (2) 降水量はほぼ平年並（±）
防除上の注意事項	(1) 降雨によって感染が助長されるので防除を徹底する。 (2) ほ場の排水およびハウス内換気に努める。

うどんこ病

発生時期	連続発生
発生量	やや少
予報の根拠	(1) 現在の発生は並（±） (2) 気温は高い（－） (3) 降水量はほぼ平年並（±）
防除上の注意事項	(1) 過繁茂を避ける。 (2) 施設では過度の乾燥を避ける。

軟腐病

発生時期	連続発生
発生量	やや多
予報の根拠	(1) 現在の発生は並（±） (2) 気温は高い（＋） (3) 降水量はほぼ平年並（±）
防除上の注意事項	(1) 作業中は作物を傷つけないよう注意するとともに、害虫防除を徹底する。 (2) ネギ類は高温時の作業を避け、灌水をしないこと。

スイカつる枯病

発生時期	連続発生
発生量	並
予報の根拠	(1) 現在の発生はやや少（±） (2) 気温は高い（＋） (3) 降水量はほぼ平年並（±）
防除上の注意事項	(1) 降雨前後の防除を徹底する。 (2) ほ場の排水に努める。

スイカ炭疽病

発生時期	連続発生
発生量	やや少
予報の根拠	(1) 現在の発生は並 (±) (2) 気温は高い (－) (3) 降水量はほぼ平年並 (±)
防除上の注意事項	(1) 降雨前後の防除を徹底する。 (2) ほ場の排水に努める。

ネギ黒斑病

発生時期	連続発生
発生量	やや多
予報の根拠	(1) 現在の発生は並 (±) (2) 気温は高い (+) (3) 降水量はほぼ平年並 (±)
防除上の注意事項	(1) 降雨前後の防除を徹底する。

ハダニ類

発生時期	連続発生
発生量	多
予報の根拠	(1) 現在の発生は多 (+) (2) 気温は高い (+) (3) 降水量はほぼ平年並 (±)
防除上の注意事項	(1) 抵抗性の獲得を防止するため、同一系統の薬剤は連用しない。

アブラムシ類

発生時期	連続発生
発生量	やや多
予報の根拠	(1) 現在の発生は並 (±) (2) 気温は高い (+)
防除上の注意事項	(1) 抵抗性の獲得を防止するため、同一系統の薬剤は連用しない。

アザミウマ類

発生時期	連続発生
発生量	多
予報の根拠	(1) 現在の発生はやや多 (+) (2) 気温は高い (+)
防除上の注意事項	(1) 抵抗性の獲得を防止するため、同一系統の薬剤は連用しない。

ネギハモグリバエ

発生時期	連続発生
発生量	並
予報の根拠	(1) 現在の発生はやや少 (－) (2) 気温は高い (+)
防除上の注意事項	(1) 抵抗性の獲得を防止するため、同一系統の薬剤は連用しない。

オオタバコガ

発生時期

連続発生

発生量

多

予報の根拠

- (1) フェロモントラップ誘殺数はやや多 (+)
- (2) 気温は高い (+)

防除上の注意事項

- (1) 若齢期の幼虫の防除を徹底する。

ハスモンヨトウ

発生時期

8月上旬以降

発生量

並

予報の根拠

- (1) フェロモントラップ誘殺数はやや少 (-)
- (2) 気温は高い (+)

防除上の注意事項

- (1) 若齢期の幼虫の防除を徹底する。

シロイチモジヨトウ

発生時期

8月上旬以降

発生量

並

予報の根拠

- (1) フェロモントラップ誘殺数は少 (-)
- (2) 気温は高い (+)

防除上の注意事項

- (1) 若齢期の幼虫の防除を徹底する。